

委託事業実施内容報告書
平成27年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(B)】

実施内容報告書

受託団体名 長野県

1. 事業名称

・バイリンガル指導者を活用した日本語学習支援事業

2. 事業の目的

・同国人に対して日本語と母国語で生活に必要な日本語表現の指導や、日本社会の習慣、マナーを伝授するバイリンガル人材を育成し、その者を活用した日本語教室を実施することにより、日本語学習支援の拡充を図り、外国籍県民等の自立と社会参画を目指す。
・バイリンガル人材が実体験を基に、外国人として最も必要としていること・学ぶべきことは何かを考え、同国人を指導していくことにより、外国人のニーズにあった日本語教育を行う。
・26年度(東北信地域)で育成した者の日本語学習支援に向けた取組をフォローするとともに26年度の成果を全県に広げるため安曇野市(中信地域)を中心とした地域でバイリンガル日本語指導者を育成する。

3. 事業内容の概要

同国人に対して、日本語と母国語で、日本語指導や日本社会の制度、習慣等を伝えることができる人材を育成する講座を開催する。
さらに、育成講座修了者が、コミュニティ内外の日本語が不自由なために課題を抱えている層を対象に呼び掛けをし、子育てや公的サービスを受ける上で必要な日本語表現など、ニーズに基づいた日本語表現を自ら指導者となり教える教室を企画・実施することにより、日本の制度や習慣を真に理解し、生活に必要な日本語への認識を深める。

4. 事業の実施体制について

バイリンガル日本語指導者育成講座の参集範囲として考えられる松本市、塩尻市、安曇野市、岡谷市及び諏訪市等の多文化共生担当課に対しては、人材の掘り起こし等で協力を依頼し、事業終了後の人材の活用についても共に検討を行っていく。
その他、運営委員会には日本語教育専門家に加えて、外国人を雇用する企業として医療法人等に出席を依頼し、育成講座及び日本語教室を地域の実情に合った形で実施するための検討を行う。
また、取組の一つで日本語学習支援のあり方検討会を行い、市町村やNPO、日本語学習支援者等の参加により、日本語学習支援のあり方について検討する。
中核メンバー及び主な連携先は委員としてこの事業の運営に携わるものとする。

5. 運営委員会の開催について

【運営委員】

1	石井 恵理子	東京女子大学現代教養学部(教授)
2	市川 明美	安曇野市総務部人権男女共同参画課(課長)
3	須田 恵瑞	(公財)長野県国際化協会(常務理事)
4	春原 直美	佐久市市民活動サポートセンター(センター長)
5	堀 永乃	(一社)グローバル人材サポート浜松(代表)
6	丸山 美枝	あずみの国際化ネットワーク(代表)
7	宮沢 照子	医療法人宮沢医院(理事)
8	山本 晋司	長野県県民文化部国際課(課長)

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成27年 4月23日(木) 13:30～15:30	2時間	長野県庁 議会棟405号 会議室	石井 恵理子 市川 明美 須田 恵瑞 春原 直美 堀 永乃 丸山 美枝 宮沢 照子 山本 晋司	1 バイリンガル指導者を活用した日本語学習支援事業について ・平成26年度事業についての報告 ・平成27年度事業の概要について ・バイリンガル日本語指導者育成講座の日程等について ・修了認定方法について 2 事業成果の検証方法について 3 今後の予定について
2	平成27年 7月2日(木) 13:30～15:30	2時間	長野県 土木センター 104会議室	石井 恵理子 市川 明美 須田 恵瑞 春原 直美 堀 永乃 丸山 美枝 宮沢 照子 山本 晋司	1 バイリンガル日本語指導者育成講座の実施状況について 2 外国人コミュニティのための日本語教室の実施計画について 3 H26年度バイリンガル日本語指導者及び地域の日本語学習支援ボランティアのスキルアップ研修について 4 多文化共生推進月間について 5 日本語学習支援のあり方検討会について
3	平成27年 11月19日(木) 13:30～15:30	2時間	長野県 土木センター 104会議室	石井 恵理子 市川 明美 須田 恵瑞 春原 直美 堀 永乃 丸山 美枝 宮沢 照子 山本 晋司	1 バイリンガル日本語指導者育成講座について(修了報告) 2 外国人コミュニティのための日本語教室の実施状況について 3 バイリンガル日本語指導者のためのスキルアップ研修について 4 外国籍児童生徒等学習支援事業の進捗状況について 5 平成28年度長野県実施日本語学習支援関連事業(案)について 6 その他
4	平成28年 2月17日(水) 13:30～15:30	2時間	長野県 土木センター 104会議室	石井 恵理子 市川 明美 須田 恵瑞 春原 直美 堀 永乃 丸山 美枝 宮沢 照子 山本 晋司	1 外国人コミュニティのための日本語教室について(修了報告) 2 バイリンガル日本語指導者のためのスキルアップ研修について(修了報告) 3 外国籍児童生徒等学習支援事業について 4 その他

6. 取組についての報告

取組1:バイリンガル日本語指導者育成講座

(1)体制整備に向けた取組の目標

・同国人に対してバイリンガルでの日本語指導と日本社会の習慣やマナーを教授できる人材を育成する。

(2)取組内容

・外国籍県民等を取りまく社会的背景と課題を捉え、多文化共生社会のためにバイリンガル指導者が果たしうる役割を考える。
・日本人のコミュニケーション、習慣やマナーなど人間関係に関わる言語行動や規範、意識の文化差を知り、相互に調整する方法を考える。
・年少者の日本語学習支援に必要な知識を学ぶ。
・学校や役所の通知の読み方、公的サービスの手続きの際に必要な日本語表現を学ぶ。
・各コミュニティで周囲の人々と関わりながら日本語力を高めることを目指し、修了後に取り組む教室活動の設計を行う。

(3)対象者

・日本語能力試験N2以上を取得あるいは同等レベルの外国籍県民等

(4)参加者の総数 23 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

そのうちの日本語学習者数 23 人 ※内、修了者 19名

【出身・国籍別内訳】

中国	13人	インドネシア	人	
韓国	人	タイ	人	・アメリカ 1人
ブラジル	9人	ペルー	人	・
ベトナム	人	フィリピン	人	・
ネパール	人	日本	人	

(5) 開催時間数(回数) 21 時間 (3 時間× 全 7 回) 特別講座3時間

(6) 活動の具体的内容

回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成27年 5月10日(日) 13:00～16:00	3時間	豊科交流学習 センター「きぼ う」 学習室	16人	・ウォーミングアップ ・在留外国人の状 況、バイリンガル指導 者の役割と社会的意 義 ・異文化理解と適応 過程	・外国人をとりまく社会的背景と課 題、自立のための日本語習得の 必要性について。多文化共生社 会のためにバイリンガル指導者が 果たしうる役割を具体的に考える。 ・文化の違いから起こる誤解や対 立、心理的葛藤等の現象につい て。自らの経験を基に、日本社会 に適応する際に必要なことを考える。	石井恵理 子	須田恵瑞 柿澤裕美 佐々木暢 子
2	平成27年 5月24日(日) 13:00～16:00	3時間	豊科交流学習 センター「きぼ う」 学習室	23人	・価値観の多様性とコ ミュニケーション ・コミュニティのニーズ 分析(ワークショップ)	・挨拶、お礼、お詫び等のコミュニ ケーション、習慣やマナーなど、人 間関係に関わる言語行動や規範 意識等の文化差を知り、相互に調 整する方法を考える。 ・各コミュニティで必要とされること を考える。	徳井 厚 子(1.5h) 堀 永乃 (1.5h)	柿澤裕美
3	平成27年 6月14日(日) 13:00～16:30	3.5時間	豊科交流学習 センター「きぼ う」 学習室	19人	・日本語の整理とブ ラッシュアップ1 ・日本語の整理とブ ラッシュアップ2	・N2～N1レベルの日本語(文法・ 語彙など)について、教えるため の整理 ・話しことばと書きことば、スピー チレベルによることばの使い分け など。	佐藤 佳 子 (講義 3.0h、ディ スカッション 指導 0.5h)	
4	平成27年 6月21日(日) 13:00～16:00	3時間	豊科交流学習 センター「きぼ う」 学習室	18人	・年少者の日本語学 習 ・日本の教育制度、 学校の仕組み	・年少者の日本語文法、字句文法 をする際に必要な知識を学ぶ。 ・日本の教育制度や進路選択の 実際、学校の決まりや行事など日 本の学校文化を理解し、自分の出 身国との違いを確認する。保護者 に期待されることを知り、十分な対 応が困難な保護者の支援につい て考える。	石井恵理 子(1.5h) 大橋 春 美(1.5h)	須田恵瑞
5	平成27年 7月5日(日) 13:00～16:00	3時間	豊科交流学習 センター「きぼ う」 学習室	14人	・学校とのやり取りで 使う日本語表現 ・公的サービスの仕 組み、手続きに必要 な日本語表現	・学校からの通知の読み方、担任 とのやり取りで使用する日本語表 現や、背景知識について。 ・医療、保険の仕組み、必要な手 続きや行政文書で使用する基 本的日本語表現について。	栗林 恭 子(1.5h) 佐藤 佳 子(1.5h)	八木 航 (講師助 手) 須田恵瑞

6	平成27年 7月12日(日) 13:00～16:00	3時間	豊科交流学習 センター「きぼ う」 学習室	19人	・日本語コミュニケーション活動の設計 (ワークショップ) ・日本語コミュニケーション活動の設計(教室活動)(ワークショップ)	・各コミュニティで周囲の人々と関わりながら日本語力を高めていくことを目指し、活動を考える。経験・知識、日本語力など多様な人々が一緒にできる内容、理解のための手立て、ことばの整理などを具体的に検討する。 ・具体的な授業案を組み立てる。	堀 永乃	
7	平成27年 8月2日(日) 13:00～16:00	3時間	豊科交流学習 センター「きぼ う」 学習室	12人	・模擬演習 ・活動方針発表、講評	・参加者同士で活動案を実践してみる。	佐藤 佳子	春原 直美 (コーディネーター) 佐々木暢子
8	平成27年 8月23日(日) 13:00～16:30	3.5時間	豊科交流学習 センター「きぼ う」 学習室	19人	・H26年度グループの体験発表 ・グループ別発表準備 ・模擬授業	・昨年度受講者の日本語教室の体験を聞き、準備や立ち上げなどについて考える。	佐藤 佳子 (講義 2.5h、修了 式1.0h)	春原 直美 (コーディネーター) 井田ビムテー ブ(発表者)

(7) 特徴的な活動風景

活動例①

【第1、2回 27年5月19日】

開講式に引き続き、受講生がお互いにことばを交わし、仲間意識を持てるよう「部屋の四隅(※1)」ゲームが行われた。受講者が今後活躍することが期待されている地域の日本語教育について、「多文化共生社会」という観点から、地域の日本語教育の目的、「地域で暮らす全ての人のLIFEを支える」という基本理念、意義、課題などについて講義が行われ、日本語を学ぶ個々の人々にとっての意味と同時に、社会的な視点から日本語教育の役割について、また今回の講座の受講者が果たしうる役割について考えた。

受講者自身の日本社会での異文化接触経験を振り返り、どんな問題があったか、どのように解決できたか／できなかったかなどをグループで話し合うことから始められ、続いて受講者から出された意見などをもとに、異文化社会の問題の解決は、外国人の側の日本語・日本文化習得のみに求められる者ではなく、双方向の努力が不可欠であること、そのためのコミュニケーション能力(言語能力、社会言語能力、社会文化能力)が必要であると言うことが受講者とのやりとりを挟みながら提示された。

2つの講座を通して、「自分らしく、よりよく生きる」ことができる社会となるには、複数の言語文化での経験・能力の豊かなバイリンガル指導者の役割が重要であると言うことが認識できた。

(※1「部屋の四隅」ゲーム 部屋の四隅に「はい」「いいえ」「ときどき」「わからない」など書いた紙を貼っておき、講師のする質問に対して参加者が自分の考えのところに移動する、というアクティビティ)



活動例②

【特別講座 27年8月23日】

本講座を受講して得た事を修了後、「バイリンガル日本語指導者」として地域のコミュニティに伝えるべく進めてきた、自身がこの後開く日本語教室の構想、準備等の最終回として特別講座が開催された。

昨年度、講座を実施したタイ国籍の日本語指導者の報告を聞くことにより活動のイメージをより具体的に持つことができ、質疑を通して疑問も解消された様子だった。

その後のグループ発表も、これまでの講義や話し合いを踏まえたものとなり、順調に進み全てのグループがある程度実施可能な内容と形へと構想をまとめる事ができた。

今後の教室実施にそれぞれのメンバーが前向きに臨んでいる様子が見え、講座修了の達成感も得られた。

開始時から途中までの「教室を実施しなければならない負担感」から「教室を実施することで、自分たちの考えてきたことを形にして実現させる」発想へと、多くの受講者が変化し、グループ別内容発表と模擬授業からは熱意が感じられた。

同日修了式も行われた。



(8) 目標の達成状況・成果

当初、修了者認定基準は14講座(1回2講座)の7割以上出席(4講座欠席まで)としていたが、バイリンガル日本語指導者育成講座修了者をできるだけ多く生み出すこと及び、次の日本語教室への主体的な開催に結び付けるため、学んだ事項をもとに日本語教室開催グループ別の検討を更に具体的に詰めていくことが必要となった。そのためグループの検討機会の設定と、講師の個別アドバイスを主とした特別講座を開催することとし、運営委員会の了承を得、特別講座を開催した。

上記に加え、特別講座(2講座)を欠席講座の補習として捉え、特別講座出席分を欠席講座数の補てんとし、参加申込者27名のうち修了者は19名となった。

(9) 今後の改善点について

この講座に集まる受講生は比較的高いスキルの人たちであり、自分自身のスキルを上げる事を期待、求めて参加して来る。

講座修了後、自分達が日本語教室(講座)を開くと言う事は意識をしていなかった。上級になればなるほど、勉強ができる場はなく、昨年度に続きこのギャップをどう埋めて行くかが課題であった。

また、修了後開催される日本語教室については、日本語を教える教室として捉えるのではなく、日本語を使う場面、その場面での日本語のニーズの違い、言葉の使い方、日本人との関わり方、価値観など、日本で暮らすために必要な事を後輩に伝える等、同国出身者達への支援を担う事を目的として構想、準備を進める必要がある。

今回、昨年度講座を実施した日本語指導者の報告を聞くことにより、活動のイメージをより具体的に持つ事が出来た。前年度講座修了者のサポートなどについては更に工夫をしたい。

あまりハードルの高い教室を目指すのではなく、集まりやすい教室から始めて、継続していく事を目指してほしい、との講師からの感想もあり、これらを踏まえ次回につなげたい。

取組2:外国人コミュニティのための日本語教室

(1)体制整備に向けた取組の目標

上記の講座修了者及びH26年度に育成したバイリンガル日本語指導者が、地域の外国籍県民等に対して、生活に必要な日本語表現等について講義するための講座を自身が開く。

(2)取組内容

バイリンガル日本語指導者育成講座修了者を指導者とする日本語教室を開催し、地域の同国人に対して、生活に必要な日本語表現や日本社会の習慣、マナーなどを教授する。
教室活動の具体的な内容は、バイリンガル指導者自身が各コミュニティのニーズ分析を通して企画し、設計していくものとする。
外国人による外国人のための教室として、日本語指導のみならず、バイリンガル指導者がコミュニティに対して社会参加と自立のモデルとして呼び掛けをしていく場とする。
また、26年度に育成した指導者の行う日本語学習支援の取組みをフォローする。

(3)対象者

・来日して間もない者、学習機会に恵まれなかった者等

(4)参加者の総数 255 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

そのうちの日本語学習者数 255 人

【出身・国籍別内訳】

中国	83人	インドネシア	5人	・アメリカ 10人 ・オーストラリア 2人 ・台湾 4人 ・香港 1人 ・カナダ 3人 ・イギリス 2人
韓国	2人	タイ	6人	
ブラジル	90人	ペルー	人	
ベトナム	3人	フィリピン	人	
ネパール	人	日本	44人	

(5) 開催時間数(回数) 76.5 時間 (全33 回)

(6) 取組の具体的内容

回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成27年10月18日 (日) 13:30～16:30	3	穂高公民館	19人	キャラ弁を作りましょう	・お弁当文化と栄養バランスの紹介 ・道具などの使い方のデモ	滝澤 千里	牛山 梨珠
2	平成27年10月25日 (日) 9:00～12:00	3	安曇野市本庁舎 403	13人	庁舎、図書館を見学に行きましょう	・市役所見学:各部署の役割と建物の機能 ・豊科図書館見学:図書館の施設と利用方法	范 京平	田中 周海燕
3	平成27年11月15日 (日) 13:35～15:45	2	豊科きぼう学習室2	20人	国民健康保険制度について (外部講師:安曇野市職員)	・制度の説明と質疑応答	滝澤 千里	田中 周海燕
4	平成27年11月29日 (日) 13:30～17:00	3.5	豊科きぼう学習室2	10人	日本の学校(中学校) (外部講師:中学校教諭)	・日本の学校の仕組み ・対話(日本での生活で困る事)	佐藤 琴江	范 京平
5	平成27年12月12日 (土) 19:00～20:00	1	三郷支所	23人	健康について～具合が悪くなったら	・具合が悪くなった時に使う言葉	范 京平	滝澤 千里
6	平成27年12月27日 (土) 19:00～21:00	2	穂高公民館	10人	健康について～健康な体を作りましょう	・風邪の予防 ・腸を健康にする ・肩こり改善法	佐藤 琴江	牛山 梨珠
7	平成28年1月24日 (日) 10:00～12:00	2	穂高公民館	40人	外国人住民と日本人住民 対話の集い	・国籍、日本語のレベルを超え話し合う	牛山 梨珠	滝澤 千里
8	平成27年9月12日 (土) 10:00～12:00	2	なんなん広場	25人	電話のかけ方	・緊急時の電話連絡の仕方と、119への実際訓練	中西 玲名	古屋 怜子
9	平成27年10月18日 (日) 9:30～12:30	3	なんなん広場	6人	医療用語	・医療用語 ・病院受診の予約について	山東 房子	中西 玲名

10	平成27年11月1日 (日) 10:00～12:00	2	なんなん広場	5人	ハローワークの日本語	・求人票の書き方、見方 ・面接時の姿勢、服装について	松本 暁鳳	中西 玲名
11	平成27年11月29日 (日) 10:00～13:00	3	なんなん広場	14人	料理で日本語を勉強	・松本市保健師による出前講座	山東 房子	郭 蘭娟
12	平成27年12月6日 (日) 13:00～16:00	3	ジャパンレンタ カー	11人	歌で日本語を勉強	・日本語の歌を教材に、単語の読み 方や意味を覚える	松本 暁鳳	山東 房子
13	平成27年10月25日 (日) 13:30～16:00	2.5	松南公民館 (なんなん広場)	7人	・病院／医者で問診票 を書こう	・問診票の書き方 ・医療専門用語や症状について	内田アンド レア	福田千寿香
14	平成27年11月1日 (日) 13:30～16:00	2.5	松南公民館 (なんなん広場)	6人	さまざまな場所でのマ ナー	・冠婚葬祭について ・香典の意味、書き方	福田千寿香	上坊寺マル タ晴美
15	平成27年11月22日 (日) 13:30～16:00	2.5	松南公民館 (なんなん広場)	2人	・ヨガでリラックス+α ・体のパーツ	・基本的な人間の体の部分について	磯尾モニカ	内田アンド レア
16	平成27年12月6日 (日) 13:30～16:30	3	松南公民館 (なんなん広場)	15人	スーパーで買物をしよう	・日本のスーパーでの買い物 ・簡単な材料の使い方 (授業2.5h、試食0.5h)	上坊寺マル タ晴美	内田サユリ
17	平成27年12月13日 (日) 13:30～16:30	3	松南公民館 (なんなん広場)	9人	子どもの弁当を作ろう	・管理栄養士によるレシピ	内田サユリ	磯尾モニカ
18	平成27年9月16日 (水) 19:00～20:30	1.5	Mウイング	8人	Japanese and school. How to communicate at work.	・日本の教育文化、日本の学校でよく 聞く言葉について	マイカ ラビノウィッ ツ	
19	平成27年9月30日 (水) 19:00～20:30	1.5	Mウイング	8人	Eating out and eating well. How to navigate Japanese restaurant.	・日本の外食文化、注文の仕方などに ついて	マイカ ラビノウィッ ツ	
20	平成27年10月21日 (水) 19:00～20:30	1.5	Mウイング	7人	Going to the doctor. How to effectively explain your health and get help	・体の部分、痛み、病気などの言葉	マイカ ラビノウィッ ツ	
21	平成27年11月18日 (水) 19:00～20:30	1.5	Mウイング	6人	Movie “Wolf Children” Watch and Listen	・日本の映画を題材に字幕を読みな がら言葉を聞きたる	マイカ ラビノウィッ ツ	
22	平成27年12月2日 (水) 19:00～20:30	1.5	塩 尻 総 合 セ ン ター	1人	Beginner level Japanese. Self- introductions	・受講者の要望をもとに復習	マイカ ラビノウィッ ツ	
23	平成27年12月16日 (水) 19:00～20:30	1.5	塩 尻 総 合 セ ン ター	5人	Apply your driver’s license.	・外国免許の切替え手続きについて	マイカ ラビノウィッ ツ	
24	平成27年12月5日 (土) 18:30～20:30	2	生涯学習館(イル フプラザ)	11人	実例を参考に、日本語 の覚え方を習おう	・日本語を取得できた理由や方法につ いて	川西 ケン ジ	
25	平成27年12月12日 (土) 18:30～20:30	2	生涯学習館(イル フプラザ)	14人	日本人と話して、より多 くの日本語を取得しよう	・ゲストに日本人を招き話をしながら、 分からない言葉や文章の作り方を学 ぶ	川西ケンジ	藤森 咲子 (ゲスト)
26	平成27年12月19日 (土) 18:30～20:30	2	生涯学習館(イル フプラザ)	12人	小学生新聞で、日本語 を覚えよう	・小学生新聞を教材に漢字の学習と 言葉の使い方を覚える	川西ケンジ	
27	平成27年12月26日 (土) 18:30～20:30	2	生涯学習館(イル フプラザ)	7人	新聞で、日本語を覚えよ う	・新聞を教材に漢字の学習と言葉の 使い方を覚える	川西ケンジ	
28	平成27年12月27日 (土) 10:00～14:00	4	生涯学習館(イル フプラザ)	6人	料理に隠れた日本語を つかもう。	・日本の食材で料理を作りながら言葉 の勉強をする。	川西ケンジ	
29	平成27年11月18日 (水) 9:40～11:40	2	箕輪町日伯学園	18人	防災対策について	・7歳から16歳のブラジル国籍児童生 徒に対し、防災対策についてクイズや 紙芝居を交え説明をする	横谷マリア	譜久里一雄
30	平成28年1月24日 (日) 13:15～16:00	2.5	長野市防災 市民センター	12人	体験しながら、防災の知 識を学びましょう	・長野市防災センターでの体験学習	長野市職員 (外部講 師)	譜久里一雄

(8) 目標の達成状況・成果

『日本語指導者育成講座』の修了生のうち、平成27年度修了生17名と26年度修了生5名の計22名が講師となり日本語教室を開講した。

日本語教室の実施に関わって、次のような成果を得ることができた。

(1) 企画・準備段階

- ・地域の中でどういった方たちを対象とするか、何が必要とされているかを明確にしたところで、教室開催のねらいの意識付けをグループ内で行った。この際、情報を共有しながらの役割分担が大切なことを学んだ。
- ・会場を調べて予約する、外講師を依頼する、資料を取り寄せる、取りに行く、電話でいろいろな確認をするなど、教室開催で必要とされる諸々の手続きを学んだことで、地域の中のしくみに関する理解が深まった。

(2) 当日の実施

- ・講師という役割をこなすには自身の学習も大事だが、グループ内でサポートし合うことが必要だということが理解できた。
- ・受講者として来てくれた方々に満足してもらうことは難しいが、大きな達成感も感じた。

(3) 実施後の見直し段階

- ・報告書などの作成により、自身の教室を客観的にとらえることができ改善への課題を明確にすることができた。報告書でも見られる受講者の声と併せ、今後よりよい教室の開催が期待される。この経験により、企画し推進していく力が各講師に養われたと思われる。
- ・また、講師および今回受講者として参加した外国籍の方たちにとって、これまであまり馴染みがなかったであろう会場、施設などが身近になり、今後利用がしやすくなったと思われる。

(9) 今後の改善点について

(1) 連絡体制について

- ・講師の活動エリアおよび教室の開催地と、実施団体である長野県国際化協会が離れているため、顔を合わせて打ち合わせを行うことが難しく、主にグループリーダーを通じ連絡を行った。メール連絡が合理的と思われたが、メールの使用頻度等にバラつきがあって伝達が徹底せず、各メンバーとの連絡が遅れがちになることがあった。事務局との連絡方法については、グループが動き出す前に、リーダーとしっかり確認することが必要であった。
- ・グループからの提出物について、講座開始前に各グループへ提出時期とともに明示し、徹底させていくことが必要であった。

(2) グループ毎の広報について

同じグループ内の教室でも回によって参加者数に大きくバラつきが出た。申込みが入っても当日来ない人が多く、特に学習系の教室の前には出足が鈍りがちなことから、直前のTELなどでの再確認が必要であった。

(3) スケジュールについて

日本語教室の開催期間が『バイリンガル指導者のためのスキルアップ研修』と重ならないよう、早い時期に相互のスケジュールを調整することが必要であった。

取組3:バイリンガル日本語指導者のためのスキルアップ研修

(1) 体制整備に向けた取組の目標

・地域で活動しているバイリンガル日本語指導者に対し、効果的な指導方法や日本語教室の運営方法などについて、スキルアップのための知識を伝えとともに受講者間の連携を促進する。

(2) 取組内容

敬語やビジネス文書作成など、日常表現よりやや高度なレベルの日本語表現について、教えるための知識を習得する。また、日本語教室でグループ活動を行うためのノウハウなど、教室を開催する上で必要となるスキルの習得を目指す。

(3) 対象者

・平成26、27年度バイリンガル日本語指導者育成講座修了者及びその他受講希望者

(4) 参加者の総数 48 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

そのうちの日本語学習者数 48 人

【出身・国籍別内訳】

中国	11人	インドネシア	人	
韓国	人	タイ	11人	・台湾 1人
ブラジル	10人	ペルー	人	・アメリカ 1人
ベトナム	人	フィリピン	4人	・イギリス 1人
ネパール	人	日本	9人	

(5) 開催時間数(回数) 21.5 時間 (全 13 講義)

(6) 取組の具体的内容

回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成27年11月19日 (木) 18:30～20:00	1.5	松本市あがたの 森文化会館	3人	日本語学習支援ボランティアのリーダーに対するスキルアップ研修	開催が始まっている日本語教室の進捗報告を受けつつ、今の時点で抱えている問題点、疑問点について解決を試みる。	春原 直美	
2	平成27年11月28日 (土) 13:00～15:00	2	安曇野市豊科学 習センターきぼう	10人	敬語のスキルアップ	①「敬語のスキルアップ」・敬語の種類 ・尊敬語／謙譲語／丁寧語の形 ・敬語で話してみよう ・電話の対応 ②「ビジネス文書作成」・ビジネス メールの読み方・書き方	佐藤 佳子	
3	15:00～17:00	2		10人	ビジネス文書作成のスキルアップ			
4	平成27年12月5日 (土) 13:00～14:30 14:30～16:00	1.5	安曇野市豊科学 習センターきぼう	4人	グループ活動のアイディアを学ぼう	1. グループ活動の意味、大切さ、グループ活動の困難について意見を出し合う。 2. スペンサー博士の共同学習の紹介	服部 珠予	
5		1.5		4人	『多文化共生社会に向けた長野県内の取り組み～地域の多文化共生社会から考えること～』	1. 隣に住む人たち 2. 技能実習生について 3. 長野県内の共生への取り組み 4. 共生への具体的な取り組み 5. 地域の共生を進めるには 6. 多文化共生社会実現のために		
6	平成27年12月12日 (土) 13:00～15:00 15:00～17:00	2	長野市勤労女性 会館しなのき	22人	敬語のスキルアップ	①「敬語のスキルアップ」 ・敬語の種類 ・尊敬語／謙譲語／丁寧語の形 ・敬語で話してみよう ②「ビジネス文書作成」・ビジネス 文書の形式 ・ビジネスメールの読み方・書き方 ・慶弔時の日本語とマナー	佐藤 佳子	
7		2		22人	ビジネス文書作成のスキルアップ			
8	平成27年12月20日 (日) 13:00～14:30 14:30～16:00	1.5	安曇野市豊科学 習センターきぼう	8人	災害時！どうする？ 覚えておきたい地域の連携と防災用語	・災害時の判断、行動の仕方、情報の取り方、避難方法、救出方法 ・「指定緊急避難場所」と「指定避難場所」 ・防災意識 ・普段からの物的備え(備蓄、防災用品) ・家具の配置 ・地域コミュニティへの参加 ・安曇野市補助金制度の案内 ・まとめ ・情報配信サービス等紹介	熊井 勝志	
9		1.5		8人	家庭生活と子どもの育ち ～学校現場で感じること	・学校現場で支援している外国由来の子どもたちの生活、学習、言語発達について ・バイリンガル指導者として、今後関わっていくであろう子どもたちの親にぜひ伝えてほしい「日本の学校生活」について		
10	平成28年1月17日 (日) 13:00～14:30 14:30～16:00	1.5	松本市あがたの 森文化会館	12人	いろいろな場面から学ぶ「伝わる日本語」	1 日本語の誤用例と誤用分析 ・日本語の発音とその表記に関する誤用例 ・文法に関する誤用例 ・語彙に関する例 2. 日本語会話の特徴 ・日本語初級テキストの紹介 ・パーソナルスペース	寺島 順子	
11		1.5		12人	心に在り続ける人びと ～支援のこころを求めて	1 食事を作る(料理する)とき、心がけていること 2 徳川家康が仕えている者にたずねたこと 3 塩の外国語について 4 塩に関係する言葉について 5 塩の役割 6 塩のつく言葉		
12	平成28年1月24日 (日) 13:00～14:30 14:30～16:00	1.5	長野市 もんぜんぶら座	6人	相談と支援を使いこなす～自身と仲間の危機を超えて	「相談と支援を使いこなす」～自身と仲間の危機を超えて (前半)相談と手続きの言葉 1 読めない封筒に見られる用語と危機 2. 世帯関係・収支関係などの用語と整理 3. 相談と諸手続きの流れ (後半)周囲の仲間の危機に対して 1. 気づき 2. 傾聴 3. つなぐ	八木 航	
13		1.5		6人	くらしの相談と相談のことば (前半)(後半)			

(7) 特徴的な活動風景(2～3回分)

活動例①

【第6、7回27年12月12日】担当講師報告書より

受講者は、来日後20年以上の方たちが多い中、まだ6か月という方も3人いて、日本語学習経験やレベルはさまざまでした。ただ、みなさん非常に熱心で、同国人同士でのサポートもあったので、講座としては問題なく進めることができました。

日常の仕事で敬語を使用したり、メールや文書作成をしたりしている方も参加者のうちの半数以上いたため、その方たちにとっては振り返りの機会となりました。



活動例②

【第12、13回28年1月24日】担当講師報告書より

参加者少数ながら関心高く、事例として紹介した困難類似の経験・見聞があると思われる。以後の類似経験・見聞において本講習で得た概念を念頭に置いた対応を執ることで社会的排除を中心とした危機は緩和されるものと期待する。



(8) 目標の達成状況・成果

会場を3箇所(安曇野、松本、長野)にて開催したため、各会場地元中心の参加者というのはほぼ予想されたとおりであった。

全13講座(7日間)中、最も多く参加された方は次の通り。

2名…8講座に参加、2名…6講座に参加、8名…4講座に参加、39名…2講座または1講座に参加。

全13講座を通じ参加申込者は延べ155名であったが、うち出席者は延べ133名で、出席率は85%であった。

「バイリンガル日本語指導者育成講座」修了生の中で、当スキルアップ研修に参加しながら『日本語教室』を開催した安曇野地区の中国人修了生の方々は、当初予定した日本語教室の日程の途中で『日本語教室』の内容を再吟味し変更することで、地元の同国出身者の地域生活を快適なものになるよう支援しよう、相互のコミュニケーションを強めようという意欲が目に見え、教室の内容もより充実したものになった。

敬語の使い方をテーマにした講義は、バイリンガル日本語指導者育成講座で取り上げたものではあるが、さらにレベルを高めた内容であり、敬語の難しさを印象づけるものとなった。しかし、敬語の使用で困っていた受講者には多くの知識を与えるものとなり、今後の自分の学習の指針を与える機会として成果があった。

(9) 今後の改善点について

研修会を開催するにあたり、対象者に受けた研修の内容、講師、開催場所などについて事前アンケートを行い、内容等を選定した。今後さらに、何を求めて研修に参加したいのかを見極め次の研修会に向けて準備を進めたい。また、受講者からは地元会場しか参加できなかったのが残念であったという感想もあり、開催地、開催方法については更に検討していきたい。

取組4: 日本語学習支援のあり方検討会

(1) 体制整備に向けた取組の目標

学識経験者、地域の日本語教室講師及び支援機関等からの出席者により、効果的な日本語学習支援を行っていくため、推進のあり方を検討する。

(2) 取組内容

H26年度に策定した「長野県多文化共生推進指針」の重点施策の一つとして日本語学習の推進を位置づけた。
今後長野県において、どのように外国籍県民の方々へ日本語学習支援を行っていくか、県内の日本語学習支援の現状と課題の整理を行い、日本語を学びやすい機会の提供や、それを支える人材の育成策等、日本語学習支援のあり方について県内各地域の実情を把握し、県や関係機関が行うべき施策につなげていく事を念頭に検討する。

(3) 検討委員

1	大澤 志那子	飯田市公民館日本語教室(コーディネーター)
2	佐藤 友則	信州大学グローバル教育推進センター(教授)
3	佐藤 佳子	NPO法人 中信多文化共生ネットワーク(社員)
4	鈴木 紀子	長野市外国人のための日本語教室(講師)
5	須田 恵瑞	(公財)長野県国際化協会(常務理事)
6	春原 直美	長野県日本語ネットワーク(代表)
7	成澤 みつ子	上田市多文化共生推進協会(理事)
8	山本 晋司	長野県県民文化部国際課(課長)

(4) 開催時間数(回数) 7.5 時間 (2.5 時間× 全 3 回)

(5) 概要

回数	開催日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成27年 6月19日(金) 14:30～17:00	2.5時間	長野県 松本合同庁舎 603号会議室	大澤 志那子 佐藤 友則 佐藤 佳子 鈴木 紀子 須田 恵瑞 春原 直美 成澤 みつ子 山本 晋司	1 県内の日本語学習支援の現状と課題の整理 2 日本語学習支援のあり方についての検討 ・日本語学習支援における各機関等の役割 ・日本語学習支援コーディネーターの位置づけ 3 今後の予定について
2	平成27年 9月2日(水) 14:30～17:00	2.5時間	長野県 松本合同庁舎 101号会議室	大澤 志那子 佐藤 友則 佐藤 佳子 鈴木 紀子 須田 恵瑞 春原 直美 成澤 みつ子 山本 晋司	1 県内の日本語学習支援の現状 ・大人に対する支援(安曇野市において開催されたバイリンガル日本語指導者育成講座について) ・児童生徒等に対する支援(外国籍児童生徒等学習支援事業の進捗状況について) 2 日本語支援における県、市町村及び関係機関の役割について 3 今後の予定について
3	平成27年 11月6日(金) 14:30～17:00	2.5時間	長野県 松本合同庁舎 603号会議室	大澤 志那子 佐藤 友則 佐藤 佳子 鈴木 紀子 須田 恵瑞 春原 直美 成澤 みつ子 山本 晋司	1 平成28年度長野県実施日本語学習支援関連事業(案)について ・日本語学習支援事業について ・校外における外国籍等児童生徒等日本語学習支援事業について 2 検討内容の市町村等関係機関への周知方法について 3 その他

(7) 特徴的な活動風景

(8) 目標の達成状況・成果

本県では、外国籍県民の方の、言語コミュニケーション上の課題に対応するため、日本語学習支援事業に取り組んでいる。
現在、日本語教育機関、地域の日本語教室、県、市町村等、様々な形で外国籍県民の方への日本語学習支援は行なわれているが、今後長野県においてどのようにこの支援を行なっていくかが、大きな課題となっている。
非公開で開催された、このあり方検討会では委員それぞれの立場、視点から、素直な意見が交わされ、また、県内の日本語学習支援の現状と課題の整理を行い、外国籍県民の皆さんへの日本語を学びやすい機会の提供や、それを支える人材育成策等、日本語学習の推進のあり方について検討する事ができた。

(9) 今後の改善点について

本年度のあり方検討会をベースに、長野県が新たに取り組んできた日本語教育について検証し、今後更に次のステップとしての日本語教育の推進について検討をしたい。

取組5:多文化共生推進シンポジウム

(1)体制整備に向けた取組の目標

・平成26年度に策定した長野県多文化共生推進指針の基本目標の下「多文化共生推進月間」を定め、シンポジウムを開催し、多文化共生社会作りと、それに資する日本語教育の在り方についての認識を深める。

(2)取組内容

・取組1～4における事業成果を、一般県民、外国籍県民、市町村、NPO等に広く周知するためのシンポジウムを開催する。

(3)対象者

・一般県民、外国籍県民等、市町村、県及び市教育委員会、日本語学習支援に関わる団体、個人 等

(4)参加者の総数 45 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

そのうちの日本語学習者数 14 人

【出身・国籍別内訳】

中国	9人	インドネシア	人	・アメリカ 1 人 ・不明 1人 ・
韓国	人	タイ	2人	
ブラジル	6人	ペルー	人	
ベトナム	人	フィリピン	1人	
ネパール	人	日本	25人	

(5) 開催時間数(回数) 3 時間 (3 時間× 全 1 回) 午後分科会

(6) 取組の具体的内容

回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	取組のテーマ	内容	講師等氏名
1	平成27年 7月12日(日) 9:30～12:30	3時間 (午後 分科会)	松本市 信州大学	46 人	平成26年度に策定した長野県多文化共生推進指針の基本目標の下「多文化共生推進月間」を定め、シンポジウムを開催し、多文化共生社会作りと、それに資する日本語教育の在り方についての認識を深める。	○基調講演 「二つの国を生きるということ」 ○パネルディスカッション 「様々な国の人々が暮らす社会の魅力とは」	山脇啓造 (明治大学 国際日本学部教授) 仁田 知樹 (駒ヶ根青年海外 協力隊訓練所長) 堀 永乃 (一般社団法人グローバ ル人材サポート浜松 代表理事) 丸山 文 (松本市 多文化共生プラザ コーディネーター) 横山ルッカス (ブルデンシャル 生命保険(株) ライフプランナー)

(7) 活動風景

【平成27年7月12日(日)】

留学生・大学生など若い世代もターゲットとした外国籍県民、一般県民、行政、支援機関の方々が集うシンポジウムを信州大学松本キャンパスにおいて開催した。午後には分科会として、防災リーダー育成研修会、バイリンガル日本語指導者育成講座、外国籍県民向け行政相談会がひらかれた。



(8) 今後の改善点について

バイリンガル日本語指導者育成講座が午後分科会として開催されたため、受講者の積極的な参加を得る事ができ、パネルディスカッションは有意義なものとなった。
一方、大学での開催であったため、学生の参加も期待したが、多くの参加者を得る事は出来なかった。
地域の外国籍県民の方の参加も少なく、周知方法等更に考えていきたい。

8. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

- ・同国人に対して日本語と母国語で生活に必要な日本語表現の指導や、日本社会の習慣、マナーを伝授するバイリンガル人材を育成し、その者を活用した日本語教室を実施することにより、日本語学習支援の拡充を図り、外国籍県民等の自立と社会参画を目指す。
- ・バイリンガル人材が実体験を基に、外国人として最も必要としていること・学ぶべきことは何かを考え、同国人を指導していくことにより、外国人のニーズにあった日本語教育を行う。
- ・26年度(東北信地域)で育成した者の日本語学習支援に向けた取組をフォローするとともに26年度の成果を全県に広げるため安曇野市を中心とした地域でバイリンガル日本語指導者を育成する。

(2) 目的・目標の達成状況

現在の長野県内の外国籍県民は、ピーク時に比べると年々減少してはいるが、定住化は進行している。
それに伴い、外国にルーツを持つ子どもたちが、親の日本語能力が十分でないことや、親が日本の教育に関して知識や情報がないことが原因で、言語を習得する環境が整わず、母語も日本語も不十分な状態になってしまうなど、深刻な課題が発生している。
本県では、こうした外国籍県民の方の、言語コミュニケーション上の課題に対応するため、日本語学習支援業に取り組んでいる。
現在、日本語教育機関、地域の日本語教室、県、市町村等、様々な形で外国籍県民の方への日本語学習支援は行なわれているが、今後長野県においてどのようにこの支援を行なっていかかが、大きな課題となっている。
この事業の講座を修了したバイリンガル指導者が、地域において、自身のコミュニティの中心的役割を果たしていくようになる事に加え、近年、地域において外国籍県民の方が生活、活躍をされる事に伴い高度な事例における通訳を求められることが増えてきたなか、今後必要とされてくる通訳者としての活用も期待できる。

(3) 地域における事業の効果、成果

本事業を通じて、バイリンガル日本語指導者育成講座の修了者等の連携を促し「自分たちだけで、地域のために活動ができる」と勇気づけることができた。
バイリンガル日本語指導者育成講座の修了者等が主体となって、地域のキーパーソンとして外国籍県民等の共助活動の推進をはじめている。
この事業は、県が実施主体であったことから、地元の市町村やNPO等との連携を重視したが、これにより、地域が一体となって日本語学習の支援に取り組むことができた。
また、外国籍県民等の住民が少ない市町村にも、日本語の学習支援など多文化共生の推進に関する施策について、方向性を示すことができた。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果

本年度、育成講座を開催した安曇野市からは講座終了後、行政に通訳などで協力をしてくださる様な方も出てきており、講座を開いていただいた事により大変有り難い結果になった、との感想をいただいた。

(5) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

ア 事業実施に当たっての周知・広報について

バイリンガル日本語指導者育成講座は、設定会場を中心とした周辺地域の外国籍住民を対象として募集をかけた。その周知方法としては、周辺自治体による広報手段はもとより、外国籍住民の国籍別のキーパーソンからのネットワークを活用しての周知を行った。また、(公財)長野県国際化協会の研修会受講者のネットワークを通しての周知も行った。コミュニティのための日本語教室は、上記講座修了生グループが中心となったものであり、教室開催の周知・広報は当該グループのネットワークを主に活用して行った。また、地域の日本語教室の主事者等からの周知も行った。

イ 事業成果の地域への発信等について

バイリンガル日本語指導者育成講座修了生は、講座開催中は地元自治体との交流があるため、自治体担当者等と接する機会を通じて行政施策への関わりが生じた。自治体が今後必要とする人材を修了生の中から発掘することを含め、修了生が希望する地域貢献への道が開かれたように思われる。

外国人コミュニティのための日本語教室は、地域で生活する際に生じる問題等への対応について誰に聞けば解決に近づくのか等、教室参加者にとっては、自分たちが良好な生活を送る上でのヒントを与えてくれたものとなった。また、新聞等で報道された教室もあり、身近な外国籍住民の活動を一般住民が知る良い機会となった。チラシやSNSでの周知により、仲間が集まって開催する楽しみ、面白さを地域に発信することができたと考えている。

また、本事業全体については、市町村やNPO法人など地域の関係団体を参集した連絡会議及び、県の関係各課を参集した庁内会議において実施報告を行い、事業の成果と意義について広く周知を行った。

(6) 改善点、今後の課題について

バイリンガル日本語指導者育成講座の修了者が外国人コミュニティのための日本語教室を実施するなど、地域のキーパーソンとしてコミュニティの中心的役割を果たし外国籍県民等の共助活動を推進していくためには、その活動をサポートする人材も必要であり、今後は、こうした人材への働きかけや育成にも取り組んでいく必要がある。

また、昨年に続き地域を変えての開催となったが、今後はさらに他地域でも同様の取組を実施し、広げていきたい。

長野県が取り組んできた日本語教育について検証を深めると共にH26、27年度に育成した指導者の行う日本語学習支援への取組みをフォローし、各年度の修了生とのネットワークの構築も含め、今後の活動、更なる取組みに向けて検討して行きたい。

(7) その他参考資料

※別添のとおり